

事務事業名	水の縁推進事業	所属部	政策企画部	所属課	地域振興課
政策名	〈I〉みんなで築くまち〈協働・行政経営〉	所属G	尾原ダム・国際交流G	課長名	加藤信也
施策名	〈01〉市民が主役のまちづくりの推進	担当者名	福岡 守	電話番号	0854-40-1013
目的・対象	市民 意図 まちづくりの課題を主体的に解決する。	会計・款	大事業 大事業	(内線)	2312
基本事業	〈003〉まちづくり活動の拠点整備	予算科目	0:1:1:0:0:7	事業名	ダム湖周辺地域活性化事業
目的・対象	市民 意図 活動しやすくなる。	項目	中事業 中事業	事業名	水の縁推進事業
			0:5:6:5:1:0		

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
・斐伊川流域住民 ・雲南市民	尾原ダム周辺施設に訪れやすいようにする
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 ☐ 単年度のみ ☐ 単年度繰返(年度～) ☒ 期間限定複数年度 (H25 年度～ R14 年度)	・尾原ダム水源地域ビジョンの実現に向け、水源地域の活性化のための事業を実施。 ・さくらおろち湖周辺の景観保全活動やダム関連施設を活用した各種イベント実施など、地域住民をはじめとした多様な主体の連携による持続可能な取組を推進している。
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R5年度実績(R5年度に行った主な活動)	(この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)
・景観・環境保全業務委託:さくらおろち湖周辺の除草、間伐、景観作物の栽培、企業CSR活動等の実施 ・地域づくり支援(スポーツ振興等)業務委託:ダム湖や周辺施設等を活用した各種スポーツイベントの実施。 ・観光交流促進業務委託:斐伊川上下流域交流イベント、遠足誘致などの情報発信と支援を実施。	・第1期水源地域ビジョンは、R4年度末で計画期間(10年)が満了。尾原ダム水源地域ビジョン推進委員会及びさくらおろち湖活性化ネットワーク会議等での検討を踏まえ、R5年2月に第2期ビジョンを策定。 ・R2年度より計画実施している小規模で多彩なプログラムの集合体である「さくらおろち湖FUNまつり」を、R4年度から「さくらおろち湖魅力発見ツーリズム」に名称変更し、さらなる促進を図ることとした。

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R3年度 (実績)	R4年度 (実績)	R5年度 (実績)	R6年度 (計画)
ア さくらおろち湖周辺施設来訪者	人	57,946	63,597	58,078	72,000
イ 水源地域ビジョンプロジェクト実施率	%	76.6	81.0	86.1	100.0
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R5年度決算)	② コストの推移	単位	R3年度(決算)	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(計画)
①さくらおろち湖周辺景観保全業務委託(委託先: NPO法人さくらおろち) 6,338千円 ②さくらおろち湖周辺観光交流促進業務委託(委託先: NPO法人さくらおろち) 4,830千円 ③尾原ダム周辺地域づくり(スポーツ振興等)業務委託(委託先: (株)キラキラ雲南) 1,635千円 計: 12,803千円 【財源】地域振興基金繰入金	財源内訳 国庫支出金 県支出金 地方債 その他 一般財源 事業費計	千円 千円 千円 千円 千円 千円		13,662	13,281	12,803
				13,281	12,803	12,973

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	・概ねコロナ禍前と同様の事業を実施することができたものの、市内に位置するさくらおろち湖周辺施設等への来訪者数は前年度を下回った(△約5,500人)。なお、奥出雲町を含めた周辺施設への来訪者数は増加(12,300人)しており、コロナ禍前(R1)の84%まで回復してきている。
② 事業実施するうえでの課題	・第2期水源地域ビジョンの実現に向け、参画者の拡大と推進体制の強化を図りつつ、プロジェクトを計画的・継続的に推進する必要がある。 ・コロナ影響により減少した来訪者の回復とさらなる交流人口の拡大を図る必要がある。
③ 課題解決に向けた改革改善等	・第2期水源地域ビジョンに基づき、国、島根県、NPO法人さくらおろち、奥出雲町などの関係機関及び地域住民との連携による尾原ダム周辺の地域振興に引き続き取り組む。 ・さくらおろち湖周辺の魅力的な文化や資源を活用した「さくらおろち湖魅力発見ツーリズム」のプログラム化、定着化を図るなど、来訪者数の増加に向けた取り組みを推進する。